

企画展示

館内では、当財団の研究活動の紹介や、テーマごとに蔵書を紹介する企画展示を行っています。
ご来館いただいた際に是非ご覧ください。

ライブラリープラザ 1F

■ EXPO2025 大阪・関西万博 ～観光の街、大阪の魅力～

大阪は日本のほぼ中心に位置し、古くから国内の水運や陸運などの要衝でもあり、経済や商業の中心として栄えてきました。東京と並ぶ西日本の中核都市ですが、一方で上方落語や漫才、天下の台所としての食文化、道頓堀や新世界、などにより醸成された人情豊かな独自の伝統文化とともに、ポップカルチャーや最先端の都市機能などが併存する、まさに新旧織りなす街でもあります。

また今年は1970年以降の2025日本国際博覧会（大阪・関西万博）も開催されています。

『持続可能な開発目標（SDGs）達成への貢献』と『日本の国家戦略Society 5.0の実現』を目指して、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに大阪夢洲（ゆめしま）にて2025年4月13日（日）～10月13日（月）まで184日間の開催となります。

今回の企画展示ではその万博の概要と関連する図書・資料の展示、そして多様な観光資源を有する観光地、地元大阪ならではの魅力をお届けします。

エントランスギャラリー 1F

■ エントランスギャラリー（次回予告）（4月からの展示）

「世代別にみる新型コロナ収束後のインバウンド市場ーDBJ・JTBFアジア・欧米豪 訪日外国人旅行者の意向調査 2024年度版の結果を中心にー」（仮題）をテーマにパネル展示いたします。ご期待ください。



協力：大阪市東京事務所
大阪観光局 <https://osaka-info.jp/>

Information

〈当財団新刊のご案内〉

『観光文化264号』

世界の観光ダイナミズム2024
（2025年2月発行）

世界中で観光が力強い動きを見せる中、昨年度に続き当財団研究員による海外視察を実施しました。今年度の視察先は、ハワイ、オーストラリア・ニュージーランド、オランダ・イタリアの3方面。それぞれの観光地に赴き多角的に視察した結果を共有しつつ、観光がダイナミズムを持って展開していく方向について考察します。



港区の専門図書館・資料館紹介

「旅の図書館」がある港区には様々な特色を持つ魅力的な専門図書館や資料館が数多くあります。当コーナーにてシリーズで紹介していきます。

外務省外交史料館(展示室)

外交史料館は、わが国の外交に関する歴史的価値のある記録文書を保存管理し、国民の利用に供するための施設です。1971年に開館し、1936年以降外務省が行う『日本外交文書』の編さん・刊行等も行っています。2024年に麻布台ヒルズにリニューアルオープンした展示室では、150年の日本外交史に親しんでいただくため、「日米修好通商条約」などの幕末からの代表的な条約書や国書のほか、サンフランシスコ平和条約受諾時の吉田茂の演説原稿や日本最古のパスポート等、興味深い資料を多数展示しています。

なお、4月8日（火）から5月31日（土）まで、展示室リニューアルオープン周年記念展示「貴重資料から浮かび上がる吉田茂像」（仮題）を開催中です。



- 所在地：東京都港区麻布台1-3-1 麻布台ヒルズ森JPタワー5階
- 電話：03-3589-0369
- 開館時間：10:00～17:30（最終入場は17:00まで）
- 休館日：日曜日、国民の祝日、年末年始（12月28日～翌年1月4日）及び臨時の休室日として公示した日
- 入場料：無料

たびとしょ

ー 旅の図書館 News Letter ー

Vol. 31

2025年4月号



写真提供：Pixa



ぜんぶのいのちと、ワクワクする未来へ。
Towards a brighter future for all

開催期間 2025年4月13日（日）～10月13日（月）
開催場所 大阪 夢洲（ゆめしま）
Period Sunday, 13 April to Monday, 13 October 2025 Venue Yumeshima Island, Osaka City



「旅の図書館」TOPICS

当館の直近の様子をトピックスとしてお伝えします。

第20回 自然公園研究会を開催しました ～「インタープリテーション全体計画から国立公園の利用・体験を考える」～



3月21日に当財団ライブラリーホールにて首記研究会を開催しました。環境省自然環境局国立公園課国立公園利用推進室 室長補佐 中原一成氏、栃木アウトドア事業振興会BERGTOAD 山崎和幸氏、環白神エコツーリズム推進協議会 事務局次長 佐々木吉昭氏、文教大学国際学部国際観光科 教授 海津ゆりえ氏のご講演をはじめ、パネリストとして那須高原ビジターセンター センター長 真山高士氏、江戸川大学 特任教授 中島 慶二氏を迎え、東京農業大学地域環境科学部 教授 町田怜子氏にコーディネートいただいたディスカッションも盛況のうちに閉会となりました。

今回のテーマは、「インタープリテーション全体計画から国立公園の利用・体験を考える」でした。各国立公園や世界遺産地域では、インタープリテーション全体計画等（ステップアッププログラム、自然体験活動促進計画等を含む）の作成が進められています。そのインタープリテーション全体計画と既計画との位置づけや設定の意図を整理するとともに、海外の国立公園におけるインタープリテーションの状況や国内のインタプリテーション全体計画の策定事例を通じて、インタープリテーション全体計画を導入することで期待されることや効果について議論しました。

旅の図書館 2024年度蔵書 点検を実施しました

2024年度の図書館蔵書点検を2月18日から21日まで実施しました。当館の蔵書は、一般図書のほか、旅行情報誌などの雑誌類、各種報告書、統計資料、また古書類も多く多様です。今回は、國學院大學文学部司書ゼミナールの皆様と観光まちづくり学部の皆様にご協力いただき無事終了することができました。朝から夕方までそれぞれの役割分担のもと、目の回るような忙しさだったようですが、図書館業務の一環を体験され、また作業をしながらも気になる図書を数多く目にしたことなど、得ることが多かった体験とのご感想をいただきました。旅の図書館では、各大学や学生の皆様との繋がりを大切にしながら、今後とも図書館運営を進めてまいります。



山梨大学 ～生命環境学部の皆さんが 来館されました～

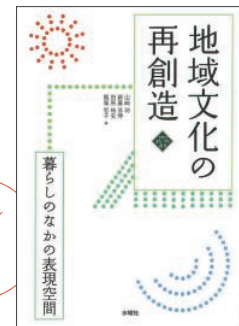
地域社会システム学科観光政策科学特別コースの学生の皆さんが、地域実習の一環として来館されました。皆さまからは、専門性が高くこんなに多くの観光の資料が揃っていることに驚いた、観光の枠組みの広さをあらためて感じた、研究員が紹介する図書を含めて卒論や研究テーマを決めるのが楽しみ、など様々な感想をいただきました。

また引率された田中敦先生からは、豊富な資料を目の当たりにして、それぞれ多くの気づきがありモチベーションが非常に高まったようだ、卒論や修士論文に着手する際には必ず一度訪問させて参考文献を充実させたい、などのお話をいただきました。皆様からのご意見を参考に、より「旅の図書館」としての機能を充実させていきたいと思っています。



旅の図書館 オススメの一冊！

最近刊行された図書の中から
当館のおすすめをご紹介します！



1 万博学/Expo-logy 第3号

万博学研究会 編 思文閣出版 2024年12月 228頁

創刊号から続く第3号。1970年の大阪万博の時代を中心に前後に開催された万博の連続性と、万博とは直接関連しないと思われるテーマに注目することでその時代をとらえなおす。

最新の万博研究など多彩な論考も掲載。

2 時刻表大解剖

JTB時刻表編集部 編 JTBパブリッシング 2025年2月 143頁

2025年はJTB時刻表100周年。『“数字だらけの紙の塊”を解きほぐし、時刻表とはどのようなものであるか、時刻以外の要素も含めて、載っている中身とそこから知りえることに関して探究した、時刻表版・解体新書です。』本書内容紹介(Webサイト)より。

3 日本観光革命 ～2030年に向けた巨大成長市場の創造～

一般社団法人日本能率協会 監修 東洋経済新報社 2025年2月 119頁

2025年1月の訪日外国人数は378万人と右肩上がりで伸張しているが、一方で人手不足やオーバーツーリズムなどの課題も抱える。「食」「日本文化」「テクノロジーと創造」「人材育成」という切り口から更なる市場創造と課題解決の方向性を探る。

4 ホスピタリティ・コミュニケーション ～満足を生む観光人材になるための基礎知識～

藤田 玲子 編著 晃洋書房 2025年3月 174頁

訪日マーケットが成長していくためには、顧客満足度の更なる向上は不可欠。観光の現場で高いホスピタリティを提供するために必要な英語・日本語のコミュニケーションや異文化理解の理論と実践をわかりやすく解説する。

5 地域文化の再創造 ～暮らしのなかの表現空間～

山崎 功、新藤 浩伸、田所 祐史、飯塚 哲子 編 水曜社 2024年12月 274頁

地域文化を未来へ伝承する上で、「積み重ねられた伝統」と「引き継がれる豊かさ」は重要なキーワード。現場目線で人々の暮らしを見つめながら、北海道から九州、台湾の37地域に培われた生活者の表現活動をレポートする。

6 客家と日本 ～知られざる日本と中華圏の交流史～

周子秋 監修 河合 洋尚 編著 風響社 2024年8月 95頁

客家とは中国をルーツとして世界各地に移り住み地位を築いた民族集団。日本では、その住居の一種である円楼がユネスコの世界遺産に登録されたことで認知度が高まってきた。知られざる客家と日本のつながりを紹介する。

ふるさとパンフレット大賞(第12回)

(一財)地域活性化センターでは、2013年度から「ふるさとパンフレット大賞」を設け、優れたセンスで地域情報を発信しているパンフレットを表彰しています。

当館では、同センターの協力のもと、第1回から最新の受賞パンフレットをそろえています。ぜひお手にとってご覧ください。



2024年度 受賞パンフレット一覧

賞	自治体名	タイトル
大賞	鹿児島県南大隅町	「まんなかと、すみっこと。」
優秀賞	長崎県小値賀町	「小値賀だから、できること」
南伸坊賞	長崎県松浦市	「meets! まつら (vol.19)」
楓千里賞	新潟県	「NIIGATA Culture Tourism ニイガタカルチャー ツーリズム-上越エリア-」
バックン賞	山形県鶴岡市	「つるおか食の原風景」
マクン賞	長野県飯田市	「飯田焼肉の取説」
地域活性化センター賞	茨城県行方市	「SHIRAUO BOOK」